

日本留学直前の博士課程予備教育におけるキャリア形成支援教育の実践 — 医学系分野に特化した教材の試用 —

菅長理恵・中井陽子・伊集院郁子

キーワード：キャリア形成支援、教材開発、体験談、架け橋、日本留学

はじめに

本稿執筆者である菅長・中井・伊集院の3名は、現在、H31～R3 科学研究費助成事業基盤（C）「留学初年次から使用できるキャリア形成支援教材の開発」（19K00732）の助成により、外国人留学生に特化したキャリア形成支援教材の開発に取り組んでいる。これは、H26～H28 科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究（26580092）「文部科学省国費学部留学生のキャリア形成—グローバル人材のロールモデル—」（研究代表者：菅長理恵）の後継となる課題である。上記萌芽研究においては、国費学部留学生プログラム修了生に対し、日本留学後のキャリア形成についてインタビュー調査を行い、その分析に取り組んだ。菅長・中井（2015a, 2015b, 2016, 2017）はその成果である。また、渋谷・菅長・中井（2017）では、現存のキャリア形成支援関連教材の分析を行い、留学前後の早いうちに日本留学後のキャリアプランについて考えさせ、留学を有意義なものにするための外国人留学生向け教材の必要性と方向性について論じた。現在は、これらの成果を踏まえ、留学の意義および成果を高めることに資することのできる具体的な教材の開発および試用を行っている段階である。

本稿は、留学生のキャリア形成支援教材開発の一環として、主に医学系分野の学生を対象として行った授業の実践および試用教材の効果についての分析報告である。第1章で教材開発の経緯と今回試用した教材の目的および概要について述べ、第2章で授業実践の概要について報告する。第3章で授業中のワークシートの記述内容についての分析、第4章で授業後のアンケートの内容についての分析を行い、第5章で、学生の学び、および教材の目的が達成できたか否かについて振り返りを行う。最後に、今回の実践を踏まえ、教材開発の今後の展望について述べる。

1. 今回試用した教材について

1.1 教材開発の経緯

筆者らは、これまで、国費学部留学生予備教育プログラム（以下1年コース）の修了生を対象としたインタビューをのべ50件（1名に対し複数回実施したものを含む）を行い、それらを文字起こししたものに基き、「先輩留学生の体験談」として教材化することに取り組んできた。体験談は、予備教育在籍中のことに始まり、大学入学直後の経験、3、4年生となってゼミに入ってから経験、大学院進学後の経験、就職活動や就職後の経験、転職や帰国後の経験、更には子育てと仕事の両立に関する経験等、日本留学後の様々な局面を扱っている。既に教材化された体験談のトピックをまとめたものが表1である。表には、教材のタイトルと概要、体験談の語り手である

先輩留学生の専攻情報（文理）、教材の日本語レベル情報を示した。大部分の教材はトピックをしぼって短くまとめたものになっているが、7と8は、キャリア形成の流れ全体を紹介した教材で全体量が多いため、3つの部分に分かれている。これらの教材のうち1～10は1年コースにおいて数回にわたって試用し、学習者の学びを分析して、教材の改訂を重ねてきた（渋谷・菅長・中井 2018、菅長・中井・渋谷 2019、中井・菅長・渋谷 2019, 2020）。教材には、体験談だけでなく、人間関係構築に役立つと考えられる活動や視聴覚教材、キャリア形成に関する意識を育てるためのタスク等があり、全体として課題解決型の設計となっているが、ここでは、体験談のリストのみ掲げる。なお、表中に出てくる JLC とは、1年コースを実施している東京外国語大学留学生日本語教育センターの略称である。

表 1 先輩留学生の体験談教材一覧

	タイトル	概要	文理	レベル
1	3つのアドバイス	JLC の学生に対する勉強・生活・貯金のアドバイス	理	中級前半
2	日本語は授業じゃなくて言語だ！	友達と日本語で話して上手になることを勧める	理	中級前半
3	日本語の壁を越える	ゼミで友達を作ることで日本語が上達した	文	中級後半
4	部活のカルチャーショック	部活のカルチャーショックを乗り越えたことが宝になった	理	中級後半
5	部活と就職	部活で日本文化を身につけ、就活で役立った	文	中級後半
6	相談相手を見つける	在学中の問題や転職を相談にのってくれる人を見つけて乗り切った	文	中級後半
7	グローバル人材のキャリア形成 1	1) 学生時代のアルバイト経験が即戦力に 2) 入社 1～4 年目に大学院時代のプロジェクト経験を生かしてプロジェクトリーダーとして成功 3) 将来はマネジメント能力を磨きたい	理	上級
8	グローバル人材のキャリア形成 2	1) 学生時代に日本人を観察してコミュニケーション力を磨いた 2) 入社 1～4 年目に、両方の文化がわかるので、日本とベトナムの架け橋としての役割を果たす 3) これからも日本語を生かして仕事をしたい	理	上級
9	大学での問題解決のために	大学入学後様々な困難があったが、解決方法を探し、乗り越えた	理	上級
10	仕事と生活をマネジメントする	子育てに仕事でのマネジメントスキルが生かせる	理	上級
11	人間関係を作る・調整する	寮や大学院などでのトラブルを乗り越え、様々な人間関係を築くことで成長した	理	上級
12	研究室で研究を行う	物事の本質を考える姿勢で研究を成功させたことにより留学生の存在を認めもらうことができた	理	上級
13	研究者としてのキャリアを形成する	研究者として成功する一つのカギは、留学生であることを含め、自分の特性を生かすことだ	理	上級
14	留学を通してキャリアの種を育てる	研究だけでなく社会的スキルを身につけたことがその後のキャリアの土台となっている	理	上級
15	医療分野で架け橋になる	日本と母国両方で医師免許を取得し、後進の教育にあたりるとともに、母国と日本との架け橋をめざす	理	上級

注：タイトル名等は仮のものであり、今後最終版作成の過程で調整する予定である。

11～13は、研究者としてのキャリア形成に特化したものであり、2019年度に博士号取得を目的として日本に留学する予定の修士号取得済みの中国人学生（詳細は2章で述べる）を対象として試用した。その実践研究を行った結果、先輩留学生の体験談を読む活動を通して、学生が自身の留学の意味を問い直すとともに、日本留学の際に遭遇しうる問題とその対処法を学ぶ契機となっていたということが明らかになった（中井 印刷中）。この試用において大学院レベルでの体験談をより多く読みたいというニーズが見られた。また、先輩留学生の体験談は、自らのキャリアについて考える契機として有効であろうという見通しが得られた（菅長・中井・伊集院 印刷中）ため、引き続き、大学院レベルで留学する研究者を対象とした教材の開発を進めることとした。

14および15は2020年度に新たに作成・試用した教材であり、前者は筆者のうち伊集院、後者は菅長が中心となって開発を行った。本報告では15の試用のみにしぼって報告する。

1.2 医学系キャリア形成教材「医療分野で架け橋になる」の概要

教材15は、日本の大学の医学部を卒業し、日本で医師として活躍している1年コース修了生A氏に対する複数回のインタビューに基づき作成した。A氏には、教材作成段階での追加インタビューや試用版教材完成後の校閲にも応じてもらった。教材は、授業の目標、先輩留学生（仮名：ラジさん）のプロフィール、キャリア形成の流れ図（図1）、インタビュー形式の体験談、語彙リスト（参考資料1）、およびワークシート（参考資料2）から構成されている。

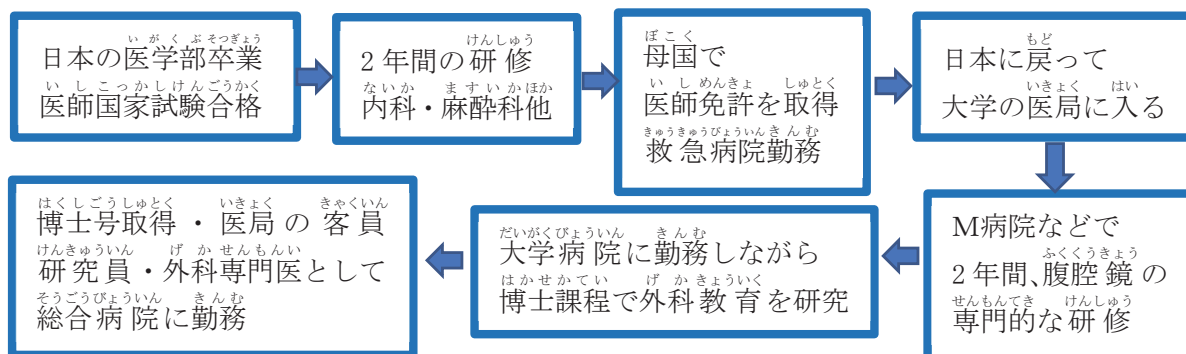


図1 ラジさんのキャリア形成の流れ（教材より抜粋）

教材の目的は、日本に留学する学生に対し、留学後のキャリア形成に関する意識を持たせ、留学をより有意義なものにすることである。教材の冒頭には「今日の目標」として、「専門分野や研究テーマの選び方を考える」「専門性の活かし方を考える」の二つを掲げた。図1は体験談の全体の流れをつかみやすくするため、本文の前に置いた。体験談本文の分量は約2800字で、内容は図1に示した通りの流れである。日本で医師免許を取り、研修医として様々な分野を経験したこと、母国でも医師免許を取得し医師として働いた後、専門性を高めるために再度来日し研鑽を積んでいること、自分自身の技術を高めることと後進を育てることの両立ができるよう外科教育で博士論文を書いたこと、そして最後に、外科教育の学会活動を通じて、日本と母国さらには世界との架け橋になりたいという希望が語られている。

この教材は、用語、内容ともに医学分野に特化したものであるため、修士号取得済みの学生のうち、医学分野および近接領域を専攻とする学生を対象に試用することとした。対象となる中国人学生の特徴として、漢字により意味の把握が容易である一方、日本語での読み方が不得手とい

うことがあるため、教材にはふりがなを多く用いている。また、医学系の専門用語が多いため、語彙リストには中国語訳も付した。

提出用のワークシートには、読む前の問い 1) 2)、読んだ後の問い 3) 4) 5)、授業で話し合った後に記入する 6) の 6 つの欄と、授業中の活動に使えるよう、クラスメートの答えをメモする欄、話し合いの際のメモ欄を設けておくこととした。1) から 6) を表 2 に示す。

表 2 ワークシートの質問一覧

授業の前に（体験談を読む前に、考えてみましょう）
1) あなたは専門分野や研究テーマをどのようにして選びましたか。
2) あなたは専門性をどのように活かしていきたいと思えますか。
授業の前に（体験談を読んでから質問に答えましょう）
3) ラジさんは自分の専門性を高めるためにどんなことをしましたか。
4) ラジさんは専門をどのような形で活かそうとしていますか。
5) あなたの専門を活かして、日本と母国に橋を架けるとしたら、どんな方法があるでしょうか。
授業の時に（「体験談を読んで話し合った後、どんなことを考えたか」発表しましょう。）
6) 発表のためのメモ

2. 授業実践の概要

2.1 参加学生の概要

授業に参加した学生たちの所属するプログラムは、中国赴日本国留学生進学博士予備教育である。学生たちは、博士号取得を目的として日本に国費留学する予定であり、全員が修士号取得済みである。専攻は文科系、理科系双方であり、分野も多岐にわたっている。執筆者の一人である中井は、2019年に引き続き、2020年3月末から7月中旬まで当該プログラムの基礎日本語団長として日本語予備教育を担当した。例年、吉林省長春にある東北師範大学赴日本国予備学校に赴いて予備教育を実施しているが、2020年は新型コロナウイルス（COVID-19）の蔓延により、全面的にオンラインによる教育となった。この2020年の基礎日本語プログラム（初級後半～中級後半）の中で、中井は、3回にわたって表1の教材のうち3、11、12、13、14を用いて授業を行った。基礎日本語プログラムにおいては、クラス内には様々な専攻の学生が混在しているが、基礎日本語プログラム（3月末～7月中旬）修了後、専門日本語プログラム（7月末～8月末）に移行すると、クラスは専攻分野別となる。この専攻別クラスのうち医学・生理学分野クラスの学生に、開発中の教材を試用する授業への参加を呼びかけたところ、9名が応じてくれた。うち2名は医学以外の分野を専攻としている。医学系分野に特化した教材であるが、それ以外の分野の学生にとっての理解度や効果についても検証が必要であるため、この2名の参加も歓迎した。学生の学びを分析できるよう、ワークシート、および、授業後アンケートの提出を求めるほか、授業（Zoomによる）を録画して文字起こしすることとし、前もって参加学生全員の承諾を得た。

2.2 授業の概要

授業の1週間前に教材とワークシートを配布し、教材の予習およびワークシート1) から5)までの記入を課した。

授業は2020年8月中旬にZoomにより実施した。教員は日本、学生は中国からアクセスし、1名の通信状況がグループワークの際に悪くなったことをのぞき、概ね支障なく90分にわたって行

われた。授業の冒頭に授業の目的を「先輩の体験談を読み、話し合うという活動を通して、専門分野や研究テーマの選び方、そして専門性の活かし方について考えること」であると述べ、前半を教材の読解と内要確認、後半を話し合いの活動とするという予定について確認した。

授業前半は、教師主導で体験談を音読し、一区切りごとに内要確認や参加者自身の経験等についての質問をはさみ、指名して一人一人に答えてもらった。ワークシートの問いのうち1) 3) 4) についてはこのやりとりの中で答えを確認した。参加学生全員がしっかりと予習をしてきており、ワークシートにある設問以外にも、ラジさんが再度来日した理由は専門性を高めるためであったこと、外科医としての仕事と博士論文執筆とを両立させるために外科教育をテーマに選んだこと等、内容に関する質問には過不足のない答えが返ってきた。なお、9名中4名（学生1～4）が医師免許を持ち、体験談に出てくる「研修」を既に経験していることもわかった。

授業後半は3人ずつ3つのグループに分かれて話し合ってもらった。その際の具体的な指示として、「司会者は最初に、「ワークシートの質問2番と5番について話し合いましょう。」とお願いして下さい。それから、「〇〇さんは、2番と5番にどう答えましたか。体験談を読む前と読んだ後で、考えが変わりましたか。」と順番に質問して下さい。最後に、司会者も自分の答えを言って下さい。聞いている人は、クラスメートの答えを簡単にメモして下さい。」のように伝えた。話し合い終了後、1分前後の発表ができるよう準備の時間を3分間与え、ワークシート6) に書き込んでもらった。

3. ワークシートの記述内容と分析

3.1 体験談を読んだことによる意識の変化

まず、体験談を読む前と読んだ後とでどのように考えが変わったかを見るために、表3に、ワークシート2) 5) の回答を示す。学生本人の記述そのままであるが、大学名等の固有名詞については「〇〇」と書き換えた。学生8と9は医学以外を専攻している学生である。

2) は体験談を読む前に、学生個人の専門性の活かし方について問うものであり、5) は母国と日本との「架け橋」を目指すラジさんの体験談を読んだ後、専門性を活かして架け橋となるにはどのような方法があるかを問うている。これらの記述を比較すると、大きく分けて2つの変化が見て取れる。一つは【専門性の活かし方の具体化】であり、もう一つは、専門性を深めるための研究への取り組み姿勢について、【個人的な取り組みから、研究者間での協働へ】と視野が広がったという点である。

表3 ワークシート2) 5) の回答一覧

	2) あなたは専門性をどのように活かしていきたいと思いますか。	5) あなたの専門を活かして、日本と母国に橋を架けるとしたら、どんな方法があるでしょうか。
学生1	博士号を取ったあと、病院に入って、医者として病院で働きながら研究を進んで、中医学の良さを世界での多くの人に伝えたいと思います。	専門を活かして、日本と母国に橋を架けようとしたら、以下のことをしたいと思っています。まず、この日本留学チャンスをちゃんと利用して、医学に関する研究方法と研究技術を一生懸命に学んで、帰国した後、母国の研究に応用し、他の研究者に伝えようと思います。二つ目：日本留学期間で、よく日本語を英語を勉強し、かけ橋になるため、コミュニケーション能力を鍛えます。そして、部活動などの形式で、自分が中国で学んだ中医学、主に鍼灸学の知識を多くの人に伝えたいと思います。

学生2	日本で、先生の指導の下でちゃんと医学基礎研究の技術を学んでから、中国、世界に伝えたいです。	学会発表、論文発表、後輩への教育などを通して、架け橋になりたいです。
学生3	よく関する論文を読んで、臨床や研究で活用してせんもんせいをいかしています。	学会や学術交流を開催して、両国の医者や研究者に交流できるチャンスを作る。
学生4	私の専門知識を用いて、脳梗塞患者がてんかんの発生を予防し、患者さんの健康を守るために疾患を治療することを助けてたい。	中日関係の架け橋という意識を持って、中日医学学会の通訳として、両国国民の健康のために努力する。
学生5	博士として医学研究をして、卒業した後で病院で自分の専門分野に研修医になって、専門性を活かしていきたいです。	まず、博士として日本でいい研究を世の中に出して、研究方法を母国に持って行きたいです。次に、研修医として、基本的な技術を磨き、新しい技術を母国に勉強させたいです。また、専門医として、専門分野の知識、技術、研究を他人に伝えたいです。
学生6	私は神経についてもっと研究して、いろいろこの領域の先端な知識を学んで、研究の能力を磨いて、学生たちに教えたいと思います。	母国へ帰って、日本で学んだ知識や技術を母国に連れ戻って、もっと自国も、または外国の研究者と交流して、お互いのいいことを勉強して、自分の研究能力を磨き、たくさん先端の知識を学び、そして学生さんたちに私の学んだことと経験を教えたいと思います。
学生7	私は自分の専門知識を分かりやすく人々に普及させたいと思っています。多くの人は健康維持の知識を知らないで、その知識を普及したいです。治療よりも予防のほうが多くの人に役に立つと思うからです。	多分ラジさんと同じ、日本で学んだ先端技術を国内の学生さんに伝えるつもりです。
学生8	私の専門にはビッグデータ分析技術が必要であるので、将来はどのようにビッグデータの計算をもっと利用するのに役立つでしょうかという問題が解決したいだと思います。	〇〇大学で、私の指導先生は、タラ海洋探査プロジェクトの一つのメンバーである。このプロジェクトは世界的な海洋研究チームである。自分の将来がこのチームで自分の役割を果たすことを願っていききたいと思う。この機会を利用して中日の海洋研究の協力を促進したいと思う。
学生9	中国に帰って、知識を学生に伝えたいです。科学研究プロジェクトを申請して、より多くの生物体の秘密を解除したいです。	母国へ帰ってから、日本の先生と専門的な知識をたくさん交流して、日本の講座に参加して、日本の先生を招待して自国の講座に参加します。

まず、【専門性の活かし方の具体化】について見てみる。学生たちはみな修士号を持つ研究者であり、2) への回答からわかるように、授業に臨む前から、研究成果の活用についての意識は高かった。それを踏まえた上で5) の回答を見ると、専門性を活かす方法やそのために何をすべきかについて具体的な記述が増えていることがわかる。

例えば、学生1は、2) では「中医学の良さを世界での多くの人に伝えたい」のように漠然とした述べ方だったものが、5) ではやりたいことを2つに分け「まず、この日本留学チャンスをちゃんと利用して、医学に関する研究方法と研究技術を一生懸命に学んで、帰国した後、母国の研究に応用し、他の研究者に伝えよう」とします。「日本留学期間で、よく日本語を英語を勉強し、

かけ橋になるため、コミュニケーション能力を鍛えます。そして、部活動などの形式で、自分が中国で学んだ中医学、主に鍼灸学の知識を多くの人に伝えたいと思います。」のように詳細かつ具体的に述べている。同様に、学生5、6も、研究成果をあげ、そして伝えるという段階を意識して記述している。学生2も、2)では漠然とした述べ方だったものが、5)では「学会発表、論文発表、後輩への教育などを通して」のように具体的な方法に言及している。これらの記述には、外科の専門性を高め、外科教育や学会活動を通じて知見を広めようとしているラジさんの体験談が着実に反映されている。

次に、専門性を深めるための研究への取り組み姿勢では、上述のように、【個人的な取り組みから、研究者間での協働へ】という意識の変化が見られた。これは、体験談が、国際的な学会活動を通じて母国と日本の架け橋になりたいという希望で締めくくられていることに負うところが大きいと考えられる。

例えば、学生3は、2)で「よく関する論文を読んで」のように自分一人で行う研究について述べていたが、5)では「学会や学術交流を開催して、両国の医者や研究者に交流できるチャンスを作る」のように交流による架け橋としての使命の果たし方に思いを致している。同様に学生8も、2)では「私の専門にはビッグデータ分析技術が必要であるので」と個人での取り組みについて書いていたが、5)では「チームで自分の役割を果たすことを願っていきたい」「中日の海洋研究の協力を促進したい」のように、研究における協働に重点がシフトしている。学生4も「中日関係の架け橋という意識を持って、中日医学学術会議の通訳として、両国国民の健康のために努力する」のように架け橋としての使命をどのように果たすかを考えている。また、学生9は、2)では「中国に帰って、知識を学生に伝えたいです」と一方向の伝達のみ考えていたが、5)では「母国へ帰ってから、日本の先生と専門的な知識をたくさん交流して、日本の講座に参加して、日本の先生を招待して自国の講座に参加します」のように、帰国後も双方向での学術交流を保とうという姿勢に変化している。

3.2 体験談から得られた気づき

グループでの話し合いの後に考えたこととして書かれた6)の記述には、体験談を読む前と読んだ後の意識の変化が明確に現れている。表4に記述の一覧を掲げる。

例えば、学生2は、「日中関係の架け橋になることは間もなく日本に行く留学生の私たちにとっての義務と責任ということがわかりました。」と、【架け橋という使命についての気づき】を書いている。さらに学生7は「私達は国費留学生として、日中の架け橋にならなければならないでしょう。ラジさんのように、日本で学んだ先端技術を母国の人に伝えるほか、また他の方法で、日中の技術交流を推進するために工夫していきたいと思います。」のように、国費留学生としての使命に気付いたことに加え、体験談に書かれていることだけでない、自分なりの方法を探そうとしていることを述べている。

表4 ワークシート6) の回答一覧

6) 「体験談を読んで話し合った後、どんなことを考えたか」 発表しましょう。	
学生1	博士号を取ったあと、病院に入って、医者になりたいと思います。私の専門は中医学で、みんなが分かるよう、中医学のメリットが多いです。でも、中医学は基礎研究と臨床研究でまだ不足な点がいっぱいがあるので、この留学チャンスをよく利用して、研究技術をよく学んで、帰国した後、医者として病院で働きながら研究を進んで、中医学の良さを世界での多くの人に伝えたいと思っています。
学生2	グループの皆さんと検討した後、教授の指導の下によく勉強して、論文を読んで、学会に参加して、色々な国の学者と交流して、専門の本や論文を翻訳するなどのような日中関係の架け橋になることは間もなく日本に行く留学生の私たちにとっての義務と責任ということがわかりました。私自身はそのチャンスを大切に、後輩たちに日本の進んだ技術を伝えようと思っています。
学生3	博士課程でよく技術や知識を学んでちゃんと研究して、学会で発表できるように頑張りたいです。卒業後に、やっぱり医者だけではなく、研究者として、国際的の優秀な研究者たちと一緒に学んだ技術と知識を用いて、一緒に影響力のある研究結果を出せるように頑張っていきたい
学生4	今は自分の研究能力と専門技能を磨き、優れた研究者になることを目標としている。真面目に研究に取り組み、どんな困難にあっても、諦めずに最後まで全力をしたいと考えている。そして日本語能力を伸ばし、国際学会にも参加し、専門技能とコミュニケーション能力を高めたいと考えている。将来、日本での留学経験を活かし、日本だけでなく、世界中の役に立つ人になりたいと考えている。
学生5	皆さんとも橋掛けとして自分の専門分野を活かしたがって、私にとっては、ラジさんのように自分が好きな分野に医者として進みたいです。
学生6	私は母国へ帰って、日本で学んだ知識や技術を母国に連れ戻って、もっと自国も、また、外国の研究者とたくさん交流して、そしてお互いのいいことを勉強して、自分の研究能力を磨き、たくさん先端の知識を学んで、学生さんたちに私の学んだことと経験を教えたいと思います。
学生7	私も自分の専門知識を活かすためにいろいろ考えていました。まずは分かりやすく私の専門知識を人々に普及させたいと思っています。多くの方は健康維持の知識を知らないで、その知識を普及したいです。治療よりも予防のほうが多くの人に役に立つと思うからです。私達は国費留学生として、日中の架け橋にならなければならないでしょう。ラジさんのように、日本で学んだ先端技術を母国の人に伝えるほか、また他の方法で、日中の技術交流を推進するために工夫していきたいと思っています。例えば、日本の教授を中国の学会を誘って研究内容や医学経験を紹介してもらいたいです。
学生8	体験談を読むまえは、私にとって、たくさん論文を読むことは一番重要なことであると考えます。体験談を読んだ後で、論文を読むことだけでなく、どんな専攻分野でも、ひたすら練習も重要なんです。例えば、私の研究テーマは海洋ウイルスですが、一つの重要な技術はバイオインフォマティクスです。バイオインフォマティクスの分析方法には毎日新しい知識が加入する可能性があります。それで、ひたすら練習は必要なんです。そして、私はこちらの先輩のように、段階的な目標を決定したいです。
学生9	母国へ帰って、大学に入って、知識を学生に伝えたいです。科学研究プロジェクトを申請して、より多くの生物体の秘密を解除したいです。日本の先生と専門的な知識をたくさん交流して、講座に参加します。

一方、学生8は「体験談を読むまえは、私にとって、たくさん論文を読むことは一番重要なことであると考えます。体験談を読んだ後で、論文を読むことだけでなく、どんな専攻分野でも、ひたすら練習も重要なんです。(中略)そして、私はこちらの先輩のように、段階的な目標を決定したいです。」のように書いている。これは、体験談の中にある、「(技術を高めるために必要なことは) ひたすら練習」「何か一つできるようになったら、また次のステージの課題が見えてくる」

といった記述から得られた新たな気づきであると思われる。

なお、学生6、9については既に2)でも述べているため変化とは言えないが、学生2、6、9の6)の記述には、後進の学生を育てたいという意志も見られた。これは、体験談の中でラジさんが外科教育という専門を選び、母国の学生に日本の外科技術を伝えようとしていることが語られていることへの共感と言えるであろう。

4. 授業後アンケートの内容と分析

授業後終了後、今後の教材の改善に役立てるため、アンケートを実施した。表5はアンケートの設問一覧である。

表5 授業後アンケート設問一覧

I. 授業で使用した教材「医療分野での架け橋になる」と授業活動について	
(1)	教材「医療分野での架け橋になる」のテキストのレベルはどうでしたか。
(2)	教材「医療分野での架け橋になる」を読み、話し合ったことで、どのようなことが学びましたか。
(3)	教材や授業活動で改善した方がいい点があったら教えてください。
(4)	その他、教材と授業活動について感想をお願いします。
II. あなたのキャリア形成について	
(5)	日本留学はあなたのキャリア形成にとってどのような意味を持っていますか。
(6)	日本に留学する前に、どんなことを知っておきたいですか。
(7)	今回の授業は、あなたの将来のキャリアにどのように活かせると思いますか。

以下、4.1で(1)(2)(7)の記述に基づき学生の学びについての振り返りを行い、4.2で(3)(4)(5)(6)の記述から今後の教材開発への示唆を得たいと思う。

4.1 学生の学びについての振り返り

(1)の教材のレベルについては、易しかった1名、ちょうどよかった6名、やや難しかった2名という回答であった。学生の日本語レベルにばらつきがあるため、それに対応した回答であるようだ。以下、(2)の回答を表6、(7)の回答を表7として示す。中国語で記入があったものについては、和訳を併記した。

表6 授業後アンケート(2)の回答一覧

	(2)教材「医療分野での架け橋になる」を読み、話し合ったことで、どのようなことが学びましたか。
学生1	立派な研究者と医者になるため、いろいろ工夫しなければならないことがあります。ずっと勉強する意識が重要だと思っています。
学生2	留学するのは私一人だけのことではなくて、架け橋になるという責任を感じられました。
学生3	いろんな単語を勉強したうえに、わたしもラジさんのように自分の知識を用いて、母国と日本の架け橋になれるように頑張りたいです。
学生4	自分の人生について合理的な計画を立て、目標を達成するために一生懸命働き続けます。日本だけでなく、世界の舞台でも活躍。
学生5	医者になる道路が長くて曲がっているようなのに、決心を持ったら、最後自分が好きな分野に医者として夢が実現できること。

学生6	優れた学者として、科目に関する幅広い知識を吸収し、経験を蓄積し、交流と協力を促進する必要があります。規律の架け橋となり、自らの価値を発揮する。
学生7	1. 先輩の重要な経験を学びました。先輩の経験したことは私達将来も経験するかもしれません。先輩の問題解決方法は私たちにとても参考になりました 2. 学生同士と話し合った後、架け橋になるための準備や方法やしたいことなどいろいろ参考になりました。
学生8	①どんな専攻分野でも、練習が必要である。 ②段階的な目標を自分に設定しなければならない
学生9	1. 物事を始める前に明確な目標 2. 日本で知識を学ぶ機会を持つだけでなく、知識を伝えることはより有意義であり、この過程で、それはまた、国々の間の緊密な結びつきを増します。

表6の記述を見ると、ワークシートの回答と同様、アンケートにも、架け橋としての使命への気づきが多く見られる。また、練習の大切さのほか、学生1、4、8は、工夫や計画を立てることに言及し、学生5、7は体験談から困難があっても乗り越えられることを学んだことを述べている。教材の内容は医学に特化したものであったが、医学以外の分野を専攻している学生8、9にとっても有意義な学びの機会であったことが確認できた。

表7 授業後アンケート(7)の回答一覧

	(7) 今回の授業は、あなたの将来のキャリアにどのように活かせると思いますか。
学生1	今回の授業を通して、私が将来、臨床医者と研究者になる自信が高まりました。先輩のように、いろいろ工夫して、頑張りたいと思っています。
学生2	留学生の先輩たちの経験をもっと知りたくなりました。先輩たちの経験を参考して自分のキャリアを考えたいです。
学生3	示唆を受けました。前は全然考えたことがないが、いま母国と日本の架け橋になりたいです。
学生4	私の将来の目標をより明確にし、着実にそれを実行するために一生懸命に働き、そしてできるだけ早く私自身であり、中国と日本の間の交流に貢献できる医者になることです。
学生5	今回の授業から私は自信と決心を持つようになって、将来、架け橋として自分の専門分野を活かすために、いろいろ努力したいです。
学生6	この講義は私に多くのインスピレーションを与えてくれました。坂口英夫先生(注:専門日本語の先生)も、一人の人間がうまく科学研究をすることは難しいとのことで、良い結果を出すためには、他の科学者とのコミュニケーションや協力が欠かせません。私たち一人一人が大きな分野のほんの一部にすぎず、架け橋になり、お互いを学び、支え合い、共に働くことによつてのみ、主題全体に真の進歩をもたらすことができます。ですから、講義を聞いて、今後は、この前任者のように、さまざまな学問の発展レベルをつなぎ、中国、日本、そして世界をつなぐ架け橋となるよう、頑張っていきたいと思っています。
学生7	先輩の経験は、このような問題に直面した際にどのように解決すべきかの参考案を提供し、また、どのように中日医療分野の架け橋になるか、具体的な方法を提供してくれました。これからは先輩のもとで、自分に合ったキャリアプランを立てます。
学生8	この先輩は、私が良い研究者になろうためのお手本になるはずで、彼の勇敢さ、勤勉さも私の見習うべき手本です。
学生9	这次课程让我知道无论是谁,想取得成绩都是不容易的事,都要一步一步认真努力。このコースは、誰であろうと、結果を得るのは容易ではないことを教えてくれました。

表7では、体験談が参考になった、手本になったという記述が多く見られた。体験談のタイト

ルが「医療分野で架け橋になる」となっていることから、やはり、「架け橋」としての手本と捉えているものが多いが、「先輩のように、いろいろ工夫して、頑張りたい」「彼の勇敢さ、勤勉さも私の見習うべき手本です」「問題に直面した際にどのように解決すべきかの参考案を提供」のような困難を乗り越える手本としての評価も複数見られた。

また、学生1、5は「自信」を持つようになったと述べ、今後の工夫や努力に言及している。特に、学生5は(2)で困難に直面しても決心があれば最後に夢が実現できることを体験談から学んだと述べており、その上で「自信」と「決心」を持つようになったと述べている。留学に際しては少なからぬ不安があるのが普通であるが、困難を見据えた上で乗り越えられる見通しを、体験談を通して得ることができたようである。このような学びは、今回試用した教材からの学びに限定されるものではなく、先輩留学生の体験談に接するというキャリア形成支援のあり方の有効性を示すものではないだろうか。

4.2 教材の改善に向けて

改善点について聞く(3)、その他感想を聞く(4)の回答としては、「改善点はない」「話し合いができてよかった」という全面的に肯定する意見がほとんどであった。それ以外の回答としては、「先生の授業はとていいと思います。教材の方が、ちょっと一人の経験だけでなく、もっとほかの方の経験も入添加したほうがいいではないかと思います。」「一人の先輩の体験談だけでなく、二人以上の先輩の体験談を読みたい。人によって困難が異なるから、多くの人の体験談を読むことで、より参考になるかもしれません。」と、複数の体験談を読みたいという声があった。また、「私は教授との研究課題や臨床実習についての日常会話とか勉強したいです」という、関連する日本語教材への要望があった。

日本語教材への要望につながるものとして、(6)の日本留学の前に知っておきたいことへの回答にも、「研究室で利用できる専門用語や敬語」「日本の研究室生活と研究室で避けるべき間違った行動」「研究室や住む場所の環境や周りの人の性格」「日本の学界の雰囲気や交流・連携のあり方」「日本で医者として成長過程や日本の医師資格試験についての内容」等があり、研究交流やキャリア形成をスムーズにするため必要な知識やスキルを学びたいというニーズがあることが確認できた。

(5)では日本留学がキャリア形成にとってどのような意味を持つかを聞いたが、9名のうち5名が「視野を広げる」ことに触れていた。また同じく5名が「キャリアの土台を作る」という趣旨の回答をしていた。次いで「技術を学ぶ」「高度な研究成果をあげる」という回答が複数あり、その他、「理想に近づく一歩」「精神力を鍛える」等の答えが見られた。これらの回答から、彼らにとっての日本留学は、専門とする分野が何であれ、その枠に留まらず、研究者としての大成を目指すステップであることがうかがえる。したがって、教材作成にあたっては、一つの分野について特殊性を追求するのではなく、他の分野にも共通するような取り組み姿勢のモデルを示すことが重要なのだと考えられる。

5. 実践と分析のまとめ

本章では、第3章、第4章を踏まえて学生の学びおよび教材の目的が達成できたか否かについて振り返りを行い、最後に、教材開発の今後の展望について述べる。

5.1 授業実践における学生の学び

本報告では、医学・医療系の専門家である元留学生の体験談に基づく教材を作成し、主に専攻分野が医学系の学生を対象とした授業において試用し、その学びを分析した。教材の内容は医学・医療系に特化したものであったが、学生の学びは、医学・医療分野での学びというより、先輩留学生の研究への取り組み姿勢や架け橋としての使命感に焦点があった。専攻が医学以外の学生についても同様の学びが見られた。このことは、先輩留学生の体験談は、専攻分野によらず、研究者という立場の学生にとって、ロールモデルとして汎用性の高いものであることを示していると考えられる。

今回の授業参加者は何よりもまず、専門性の高い研究者であり、体験談と授業を通して、自分自身の専門性をより高めるための学びを得ていたと考えられる。具体的には、以下の4つにまとめられるであろう。

- 1) 先輩の事例から得られた励まし（努力や工夫をすれば目的は達成できる）
- 2) 取り組み姿勢の見直し（論文を読むだけでなく、練習や研究者交流をする・個人的な取り組みから、研究者間での協働へ・目標を明確にする）
- 3) 帰国後の展望（国費留学生として架け橋となることへの使命感・後進を育てようという使命感）
- 4) 専門性の活かし方の具体化（具体的にどのような形で知識を伝えるかを考える）

第1章で述べたように、今回試用した教材の目的は、日本に留学する学生に対し、留学後のキャリア形成に関する意識を持たせ、留学をより有意義なものにすることである。3) の帰国後の展望、および4) の専門性の活かし方の具体化は、留学後のキャリア形成に関する意識そのものであり、参加学生たちは、1) のように、日本留学に対する不安を克服し自信と決意を持った上で、2) のように留学中・留学後の具体的な取り組み姿勢について考える機会を得たことが確認できた。中でも、個人的な取り組みから研究者間での協働へと研究への取り組み姿勢が大きく変化したことは特筆に値する。すなわち、「留学の意義および成果を高めることに資する」というキャリア形成支援教材の目的は達成できたと考えられる。

5.2 教材開発についての今後の展望

教材開発の今後の課題としては、より多くの事例を読みたいという希望に応えることと、実際の研究者交流の質を高めるための日本語教材への要望に応えることの2つが確認された。引き続き、研究者に対するインタビューの分析と教材化を進めるとともに、「研究者としての交流」という場面設定に有効な日本語教材の開発にも取り組んでいきたい。また、授業後アンケートにあったように、研究者でもある留学生にとって日本留学は「キャリア形成の土台」となるものであることを心にとどめて、多様なロールモデルを示せるような教材設計をしていきたいと思う。

謝辞

本教材作成にご協力くださった1年コース修了生、および授業に参加してくださった博士課程予備教育の学生諸子に御礼申し上げます。なお、本研究はH31～R3科学研究費助成事業基盤（C）「留学初年次から使用できるキャリア形成支援教材の開発」（19K00732）の助成を受けています。記して感謝します。

参考文献

- 渋谷博子・菅長理恵・中井陽子（2017）「キャリア形成支援に関する基礎調査—留学生のための教材開発に向けて—」『東京外国語大学論集』94, pp.87-102
- 渋谷博子・菅長理恵・中井陽子（2018）「中上級日本語クラス『キャリアプランを考えよう!』における学習者の学び—先輩留学生の体験談を生かした教材の開発と実践—」『東京外国語大学論集』97, pp.262-284
- 菅長理恵・中井陽子（2015a）「理科系ベトナム人国費留学生のキャリア形成—グローバル人材に必要な資質—」『東京外国語大学留学生教育センター論集』41, pp.29-45
- 菅長理恵・中井陽子（2015b）「日本における高度人材の働き方の鍵としての多文化性—文系の元国費学部留学生の事例から—」『留学生教育』20, pp.57-66
- 菅長理恵・中井陽子（2016）「学生時代に培われたアカデミック・ジャパニーズと職場での活動のつながり—理系・文系の元国費学部留学生の事例から—」『アカデミックジャパニーズジャーナル』8, pp.55-64
- 菅長理恵・中井陽子（2017）「エピソードから探る学部留学生の困難点と克服方法—予備教育の果たすべき役割—」『東京外国語大学留学生教育センター論集』43, pp.65-79
- 菅長理恵・中井陽子・伊集院郁子（印刷中）「留学生のキャリア形成を考える—日本で研究者として活躍する元留学生の事例より—」『中国赴日本国留学生予備学校創立四十周年及び中日両国言語教育と文化交流シンポジウム』
- 菅長理恵・中井陽子・渋谷博子（2019）「ライフストーリーの生成から教材化へのプロセス：キャリア形成支援教材の開発における協働の事例」『東京外国語大学留学生教育センター論集』45, pp.57-76
- 中井陽子・菅長理恵・渋谷博子（2019）「先輩留学生の体験談を読む活動における学び—キャリア形成支援をめざした教材作成と授業実践から—」『東京外国語大学留学生教育センター論集』45, pp.37-56
- 中井陽子・菅長理恵・渋谷博子（2020）「先輩留学生の体験談を読む活動における教師の役割—話し合いの発話の分析をもとに—」『東京外国語大学国際日本学研究』プレ創刊号 pp.98-113
- 中井陽子（印刷中）「キャリア形成と人間関係構築のための授業実践—2019年度中国赴日本国留学生予備教育における団長授業での試み—」『中国赴日本国留学生予備学校創立四十周年及び中日両国言語教育と文化交流シンポジウム』

（すがなが りえ 東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授）

（なかい ようこ 東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授）

（いじゅういん いくこ 東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授）

参考資料1 配布した教材（全4ページ）の1ページ目・4ページ目

博士班「先輩留学生の体験談」を読む 2020.8.14
首席理恵◎（著作権）

医療分野での架け橋になる

今日の目標


- 1: 専門分野や研究テーマの選び方を考える
- 2: 専門性の活かし方を考える

先輩の体験談を読もう！

★日本に留学した先輩へのインタビューを読んで、あなたの留学のその先を考えましょう。

読みながら、意味がわからないところには、下線をひいてください。

＊内容で大切だと思うところは「波線」をひきましょう。



ナール人男性。

日本の大学の医学部を出て、日本と母国で医師国家試験に合格。医師として働きながら、研究も行い、博士号を取得。外科教育を通して、身につけた外科技術を母国に伝えようとしている。現在は出身大学「医局」の客員研究員であり、また、総合病院で「専門医」として働いている。

★医局（いきよく）：医学部の組織。教授・准教授・講師・大学院生・専門研修医など、医師免許を持つ者が構成され、研究や教育、医師の派遣などを行う。

★専門医（せんもんい）：手術等の実績や研究業績を持ち、専門性が保証されている医師

1: 新しい学会の「立ち上げ」に参加されたのですか。

R: はい。アメリカ外科教育学会という大きいのはあるんですけど、日本にはなかったので、作ろうということになりました。教育・外科医育成に情熱をもつ仲間が情報を共有し、将来的な外科教育について考える集まりです。今後、リーダーの准教授や仲間と協力して、ネパールの外科教育へもつなげていきたいと思っています。

1: それはすばらしいですね。ラジさんの夢の実現には大きな力になりますね。これからも、医業現場と研究と教育の架け橋として、そして、日本とネパールと世界の架け橋として活躍されますように、お祈りしています。

R: ありがとうございます。頑張ります。

ラジさんのキャリア形成の流れ

```

    graph TD
      A[日本の医学部卒業  
医師国家試験合格] --> B[2年間の研修  
内科・麻酔科他]
      B --> C[母国で  
医師免許を取得  
総合病院勤務]
      C --> D[日本に戻って  
大学の医局に入る]
      D --> E[M病院などで  
2年間、腹腔鏡の  
専門的な研修]
      E --> F[博士号取得・医局の客員  
研究員・外科専門医として  
総合病院に勤務]
      F --> B
      F --> C
      F --> D
      F --> E
    
```

語彙リスト

何う（うかがう）：聞く 問	消化器外科（しょうかきげか）：胃や腸などの病気を扱う分野 消化外科：涉及腸胃等疾病的領域
外科（げか）：主に手術で病気を直す 外科：以手術治療を主的专业科室	腹腔鏡（ふくくうきょう）：laparoscope 腹腔鏡、腹腔鏡手術
メス：scalpel 手術刀 手術刀	患者（かんじや）：病気の患者 患者
負担（ふたん）：burden ここでは体へのダメージ (damage) のこと 負担、这里指身体的创伤	研修医（けんしゅうい）：医師免許取得後の義務として2年間働く初期研修医と、専門性を高めるための後期（専門）研修医とがある 実習医：分年获得医师资格证后义务工作两年的初级实习医生和提高专门知识水平的后期（专门）实习医生两种
医療に携わる（いりょうに たずさわる）： 从事医疗工作	内科（ないか）：主に薬で病気を直す 内科：以药物治疗为主的专业科室
麻酔科（ますい）：anesthesiology 麻酔科	救急（きゅうきゅう）：emergency medical care 急救
地域医療（ちいきりょう）：地域の住民の健康全体について責任を持つ医療 区域医疗：负责区域居民健康的医疗部门	医局（いきよく）：医学部の組織。教授・准教授・講師・大学院生・専門研修医など、医師免許を持つ者で構成され、研究や教育、医師の派遣などを行う。 医学系的组织。教授、副教授、讲师、研究生、专业实习医师等，由持有医师执照的人员构成，进行研究、教育、医师派遣等。
地道（じみち）：一つ一つのことを丁寧（ていねい）にする様子 踏踏实实：每件事情都认真做的样子	一人前（いちにんまえ）：成人の資格・能力があること。 独当一面：具有可以独当一面的资格、能力
ステージ（stage）：段階 阶段	ハード（hard）：大変、つらい 困難的、痛苦的
現場（げんば）：行われている場所 发生现场	システム（system）：体系、制度
架け橋（かけはし）：桥梁	立ち上げ（組織などを）新しく作ること（组织等）成立、設立

参考資料2 ワークシート

博士班「先輩留学生の体験談」を読む 2020.8.14

医療分野での架け橋になる ワークシート

氏名

ワークシートの使い方 ★授業の前に：授業の前に、答えを記入しておいてください。

★授業の時に：授業で説明があったら、記入します。

★授業の前に：体験談を読む前に、考えてみましょう

- あなたは、専門分野や研究テーマをどのようにして選びましたか。
- あなたは、専門性をどのように活かしていきたいと思っていますか。

★授業の前に：体験談を読んでから、質問に答えましょう

- ラジさんは、自分の専門性を高めるためにどんなことをしましたか。
- ラジさんは、専門をどのような形で活かそうとしていますか。
- あなたの専門を活かして、日本と母国に橋を架けるとしたら、どんな方法があるでしょうか。

★授業の時に：話し合ってみよう！

- グループに分かれたら 司会者を決めてください。話し合いは15+1分間です。（15分たったら、zoom 画面で「あと1分」というカウントダウンが始まります。）
司会者は、全員が同じくらい話すことができるように、タイムキーパーもしてください。
- 司会者は最初に、「ワークシートの質問2番と5番について話し合いましょう。」と言って下さい。それから、「〇〇さんは、2番と5番にどう答えましたか。体験談を読む前と読んだ後で、考えが変わりましたか。」と順番に質問してください。最後に、司会者も自分の答えを言って下さい。聞いている人は、クラスメートの答えを簡単にメモしてください。（5分）

さん	
さん	
さん	

- 司会者は「ほかの人の意見を聞いて、どう思いますか。」と質問してください。自由に話し合いましょう。メモはとってもとらなくてもいいです。（10分+1分）

★授業の時に：発表メモ

授業の最後に、「体験談を読んで話し合った後、どんなことを考えたか」について、全員、一人1分、発表します。発表できるよう、メモをしておきましょう。短くまとめてください。（準備3分）

Practice of Career Development Support Education in Doctoral Course Preparatory Education before Studying in Japan: Trial of Teaching Materials Specialized in Medicine and the Medical Field

SUGANAGA Rie, NAKAI Yoko, IJUIN Ikuko

KEYWORDS: career development support, developing teaching material, experience stories, bridge, study abroad in Japan

In this study, we created teaching materials for learners of Japanese to support career development based on the experiences of MEXT-scholarship international students who graduated from medical school and obtained a doctor's license. Using the teaching materials, we held a class teaching Japanese to Chinese students aiming to obtain a Ph.D. in Japan (seven of whom majored in medicine and two in other majors), and analyzed their learning. Although the content of the teaching materials was in medicine and the medical fields, the students' learning focused on the senior international students' attitude toward research and their sense of a mission as a bridge between China and Japan, rather than on learning medicine and topics in the medical field. The students showed similar learning regardless of their major, thus indicating that the experiences of the senior international students were highly exemplary for students aiming to be researchers.

The students' learning can be summarized by the following four points.

- 1) The experience of the students' senior encouraged the students to study in Japan.
- 2) The students' approaches to research methods and objectives expanded.
- 3) The students felt a sense of a mission to act as a bridge to Japan after returning to China.
- 4) The students came to think concretely how to utilize their specialty.

In conclusion, the teaching materials were considered effective as a career development support teaching materials for students in various fields.